



多摩市立瓜生小学校

学校だより

平成29年度 第11号

平成30年 1月 9日

夢を実現させるには

校長 吉田 正行

新年あけましておめでとうございます。ご家族や親戚の方々と笑顔あふれるお正月を過ごされたことでしょうか。学校もいよいよ3学期が始まり、子供たちの声とともに活気があふれてきました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

新年にあたり、「夢の実現」についての話を紹介します。この正月に上野動物園でパンダの飼育係をする阿部展子（あべ のぶこ）さんの本を読みました。幼い頃からパンダが大好きで、パンダ一筋だった少女が、夢を追って中国に渡り、成都（せいと）のパンダ繁殖研究所に就職。本場で修業を積み、その後上野動物園でパンダ飼育係として懸命に働く話です。

飼育係としての原点は、幼い頃、祖母がくれたパンダのぬいぐるみでした。「かわいい〜！」と感激した阿部さんは、毎日肌身離さず持ち歩いていたそうです。「いつか、本物のパンダに逢いたい」と夢見るようになった阿部さんは、1995年、小学校の修学旅行で新潟から上京し、上野動物園で念願の初対面を果たします。初めて見たパンダの姿や行動に、ますますパンダが好きになりました。さらに、高校生の時にテレビで四川省・臥龍（がりゅう）のパンダ保護センターで働く女性飼育員のドキュメンタリーを見て「私もこんな人になりたい。中国に行って、パンダのそばで仕事がしたい」と決意します。そして大学で中国語を猛勉強し、卒業後、四川農業大学に留学するのです。しかし、周りに日本人はおらず、「パンダの飼育係になるために中国に来るなんて変わった人だ」と思われたそうです。

パンダ基地での研修中、四川農業大学を卒業する年、2010年6月に、中国政府が上野動物園へ新たな2頭のパンダの貸し出しを決定します。それが現在「シャンシャン」の両親である「リーリー」と「シンシン」です。貸し出しのことを知った阿部さんは、上野動物園の園長に「私を飼育員として働かせてください」と直接手紙を書き、採用が決定します。阿部さんは、9月に帰国し、翌年2月に来園する2頭を日本に迎える準備をしました。できるだけ中国と同じ環境で過ごしてもらおうと寝る間も惜しんで工夫を重ねたそうです。来園後は順調でしたが、良いことばかりではありません。「シンシン」が妊娠し、2012年7月に初めての赤ちゃんが生まれましたが、わずか6日後に亡くなってしまいます。阿部さんはかなり落ち込んだそうですが、中国のスタッフに励まされて仕事を続けます。そして数々の苦難を乗り越え、ついに昨年、「シャンシャン」が誕生したのです。

阿部さんが幼い頃に抱いた夢を忘れずに、こつこつと努力を積み重ね、積極的に行動したことが夢の実現につながったことは言うまでもありません。

新年を迎え、瓜生小学校の子供たち一人一人にもすてきな夢があることでしょうか。その夢の実現を目指し「子供たちのために、今、必要なこと」を考え、教職員一同力を合わせ、保護者・地域の皆様と連携を深めて教育活動を進めていきます。昨年同様、本年も温かいご支援とご協力をお願いいたします。

